

(社) 日本原子力学会
第 89 回倫理委員会議事要旨

日 時 平成 28 年 1 月 12 日 (火) 13:30～17:30
場 所 東京大学工学部 8 号館 510 号室
出席者 大場委員長、三村副委員長、宇奈手幹事、大鷹委員、金山委員、辻委員、出町委員、
中野委員、中村委員、宮越委員、宮澤委員 (11 名：委員名簿順)
北村氏、作田氏 (オブザーバー)

配布資料

- 資料 89-1：第 88 回倫理委員会議事要旨 (案)
- 資料 89-2：H27 年度 倫理研究会開催案内、開催テーマについて
- 資料 89-3：2016 年春の年会企画セッション (案)
- 資料 89-4：再稼働に係る審査、承認の事例集に関わる検討用資料

議事

1. 資料 89-1 により、前回議事要旨 (案) を確認し了承された。
2. 資料 89-2 により H27 年度倫理研究会案について説明があった。案では、第 1 部として論文不正問題を主体とした講演とパネルディスカッションとしているが、データ不正という観点で一般性を持たせて、技術者倫理という広い内容とし、また、第 3 部の班目元原子力安全委員長の講演は時間を長く取れるように全体のスケジュールを見直し、1/18 までに案を最終化すると共に案内を発信できるようにすることとした。なお、案内は各委員からも積極的に関係先に対して行うこととした。
3. 資料 89-3 により 2016 年春の年会企画セッションについて内容の確認が行われた。なお、講演 1 についてはセッションの趣旨を踏まえて再度調整を行っており、最終的に変更となる可能性も残っている。
4. 資料 89-4 により前回委員会にて「国内原子力発電所の再稼働に係る審査、承認の事例集 (案)」の一部として紹介の有った日本原子力発電敦賀発電所敷地内破砕帯の活動性評価に関する検討を行った。
検討に際しては結果の如何に関わらず一連の倫理的課題を検討の対象とすることに留意し、個人の倫理観と組織としての方向性の違いや、複雑化した現代社会において行われる技術的判断に対しては説明責任が伴うことなどが指摘された。
今回の検討を踏まえ、各委員は引き続きメールで意見交換をし、次回の委員会での議論に資することとした。
5. 名倉委員から 12 月で以って退会する意向が示され、委員長により了承されたことの紹介があった。
6. その他として事例集の作成状況について説明があった。引用されている図表の出典元への了解は取得済みであり、また編集者から表紙デザインの提案があり委員の意見を確認した。これらを踏まえて 1 月中旬を目処に PR 用サンプルを作成、販売活動に入ると共に 2 月末を目処に正式発行を目指す。
7. 次回の倫理委員会は、H28 年 3 月 10 日とするが、場所については追って連絡することとした。

以上